

## ITC沖縄交流会

この交流会も大阪に始まり青森、広島、熊本、富山とつづき今は南国沖縄での開催です。本土と違った文化、歴史を重ねてきている沖縄は現在どのような経済環境にあるのか、その中でITCはどのような活躍をしているのか、皆興味を持ちつつの参加です。ITC中部からの参加者は伊藤委員長はじめ7名、ITC沖縄の参加者は代表の西平様はじめ12名で総勢19名での交流会となりました。内容は中部、沖縄それぞれの地域の産業とITC活動の紹介、それと事例・講演などが2題です。このうち西平さんの講演から沖縄産業の特長を紹介しますと、まずなんと言っても全国平均に比べ観光サービス業が飛びぬけて高いことです。従事者比率で見ると全国平均が3%なのに対し沖縄はなんと33%です。製造業は従業員比率で全国平均が20%であるのに対し沖縄は僅か5%しかありません。一方、IT化については、企業規模が小さい(1社あたりの売上は、製造業で全国平均の半分、情報サービスでは半分以下)こともありパソコン中心で余り進んでいません。しかし、IT化が遅れていると言うことは、ポジティブに考えれば今後ITCの活躍できる余地があると言うことです。西平さんの考え方としては、今



「知識研修セミナー2007」会場

後ITC沖縄をビジネス志向組織に衣替えし活動を積極化する、とのことです。今後のITC沖縄の活躍に期待したいと思います。

(ITC中部 池山 昭夫)

## 上海PJ報告

ITC中部の海外進出企業支援プロジェクトの活動として、中国・上海地区のオフショア開発の政府機関や大学、IT企業の訪問し、中国のIT最新事情を把握することを目的に視察を行った。4月10日から4月13日まで、3泊4日の日程で、名古屋工業大学大学院の岩田彰教授を団長に、ITC中部の矢口副理事長以下3名と、ITベンチャー企業1社の参加であった。復旦大学、JETRO上海事務所、愛知県上海事務所、無錫サイエンスパークのIT企業を3社、上海のIT企業を1社と精力的に訪問し、各訪問先では、社長自ら説明頂き本当に丁寧な対応であった。特に、無錫サイエンスパークでは、無錫市人民政府

府新区管理員会の副主任に昼食会を開いて頂き、驚きとともに感激した。

愛知県上海事務所の吉田部長様から頂いた企業リストによると、中国(上海中心)に本当に多くの製造業などの愛知県の企業が進出している。こうした企業の中には、中小企業も多くまだIT化が遅れていると思われる。ITC中部の海外進出企業支援プロジェクトとして、こうした現地企業のIT化を推進する支援の仕組みを考えて、多くのITCが日本と中国のITの架け橋として活躍できるように今後も活動を続けたい。

(ITC中部 伊藤 実)

## 事務局だより

### 1. 年会費の納付のお願い

平成20年度の年会費(¥5,000)が未納の方は、下記銀行口座へお振込をお願い致します。

<振込先>

銀行名:三井東京UFJ銀行 金山支店

口座番号:普通 1090276

口座名義:トクテイヒエイリカツドウホウジンアイ

なお、会社名でお振込の場合は、会社名と振込者(個人名)と合致させたく、ITC中部の会員登録名を事務局まで、ご連絡下さい。

### 2. 会員登録情報確認のお願い

広報誌「架け橋」を会員の皆様へ毎年2回発送しておりますが、返送されてくるケースが発生しております。広報誌が届かない、会員メールが届いていないという方は事務局までお知らせ下さい。

### 3. パンフレット、広報誌配布のお願い

ITC中部のパンフレットと広報誌「架け橋」をITコーディネータの知名度アップや、ITC中部への入会お誘いなどにご活用下さい。ご入用の方は、事務局までご一報下さい。

ITC中部事務局 連絡先:info@itc-chubu.jp

(ITC中部事務局 鳥内 浩一)

NPO・ITC中部広報誌第11号 平成20年9月30日 発行

発行: NPO・ITC中部広報委員会(〒460-0022 名古屋市中区金山五丁目11-6(NSC)内)

発行責任者: NPO・ITC中部 理事長 水口 和美 編集責任者: NPO・ITC中部 広報委員長 伊藤 実

ホームページ(<http://www.itc-chubu.jp/>)

NPO・ITC中部 広報誌

# 架け橋

Vol.11

## ITCで頑張っている税理士、会計士

### 特定非営利活動法人

### ITC中部

<http://www.itc-chubu.jp/>

昨今、NPO法人ITC中部の中で、税理士ITCの方々が退会する動きが大変顕著あります。税理士等の職業会計人にとってITC資格を有効活用できるのはこれからの時代であり、この傾向を逆転するよう祈る次第です。

御周知のように、2001年政府の電子政府構想は立ち上がり、ITC資格も国家プロジェクトの一環として誕生しました。現在でもITCは「IT新改革戦略」の中でも重要な人材として位置づけられています。

同時に、税理士は電子政府構想の中で、行政手続として最も多く、最も一般市民に係わる「税」に関する電子申告の唯一の代理送信者と認められ、その資格を堅持するために、税理士会全体で必死に普及促進活動をしています。

平成19年度では、577万件以上の電子申告数があり、これは目標とする国税手続きの17%でした。制度導入当初の数件から比べ、たったの4年ほどで、この数字に到達したというのは、手続の簡易化の点からも隔世の感があります。

平成16年2月2日に国税電子申告制度は、全国に先駆けて名古屋国税局管内から導入されました。私はその当時、名古屋税理士会の電子申告担当者でしたから、必死で対応し、国税が提供するソフトで日本初の国税庁サーバーにアクセスする栄を得ることができました。当時は税理士会の電子証明書も、国税側提供の電子申告ソフトもほんの2.3日前に手許に届き、暗中模索の中で送信した記憶が今でも鮮明に残っています。ただ、「ITCなのだから何とかするぞ!」という、ITCマインドだけが気持ちの支えでした。

その後、最初に送信したという経験を全国に伝えるべく、電子申告普及啓蒙運動で全国行脚をしました。各地でITC税理士の方や電子申告に興味を抱く仲間に歓迎され大きな想い出になっています。また、その時の人的ネットワークが現在でも情報交換の基礎となっています。日本税理士会連合会で電子申告ワーキンググループに加えていただき、「税理士のためのガイドブック」を発行。数度の改定作業は現在も参加しています。

さらに、税理士会の政治連盟の力を借りて、小泉政権下のIT担当大臣に大臣室で「電子政府構想における電子申告の効率化について」直談判する機会を与えていただくことができました。また、税理士会から研究員として先進国のドイツへ视察旅行にも参加させていただくことができ、税理士の中でITを得意とすることのありがたさをITC故に享受できました。



税理士・中小企業診断士 井上 新

人々、ほとんどの税理士は、ITには強いわけではありません。私も例外ではありませんが、ITCであることと、ITCの活動の中で人的な広がりができ、ITに関する情報をいただけることが何よりも財産だと感じています。ITCの皆さんには心より感謝しています。

これらの時代、税理士として、電子申告100%の時代は当たり前ですが、さらにその前に来るITの波をどうやって切り抜けるのか。それをチャンスと捉えて成長することができるのかを研究するが肝要な時代になっています。

たとえば、SaaSであり、あるいはXBRLです。通常の税理士業務からはなんら関係ない話のようですが、既にSaaSは待ったなしの実用段階に入っています。経済産業省も日本税理士会連合会にSaaSに本格的に取り組み国家予算も執行している段階においてどのように税理士と組んでいくべきか検討会を設けています。20名以下の中小企業に運用が簡単で、月額5000円前後のシステムが国策で導入され、電子申告までできてしまうものが提供される。税理士が淘汰される切欠になりかねない状態です。

各銀行は既に、XBRLでの財務諸表の提出に優遇策を設けています。XBRLは電子申告における財務諸表部分も含まれていますが、財務諸表の比較検討が圧倒的に楽になるということから、各場面において今後スタンダードになります。

税理士は、まだまだこれから来るIT化の大波の中で飲み込まれてしまっては、制度そのものが消滅しかねません。ITCで人脈形成し、情報を得るために、ITC資格を大切に堅持していきたいのです。

(ITC中部理事 井上 新)

## 税理士・会計士特集

### 目次

#### ITCで頑張っている 税理士、会計士

1

#### ITC中部総会報告

2

#### 企業訪問(樹研工業)

2

#### 税理士・会計士 特集1

3

#### 税理士・会計士 特集2

3

#### ITC沖縄交流会

4

#### 上海PJ報告

4

#### 事務局だより

4

## ITC中部総会報告

平成19年度総会・講演会が、平成20年6月7日(土)、名屋桜華会館 南館3F 桜花の間において86名の参加により開催されました。水口理事長による開会挨拶・総会に引き続き、中部経済産業省局 地域経済部 情報政策課 課長補佐 近藤典保氏による基調講演「平成20年度 IT経営応援隊事業について」と、特定非営利活動法人ITコーディネータ協会 会長 関 隆明氏による特別講演1「ITコーディネータの未来」、名古屋学院大学大学院教授 岸田 賢次氏による特別講演2「プロフェッショナルの社会的責任」の3つのご講演をいただきました。総会においては、平穏な雰囲気の中で、以下の6議案が可決されました。

- 第1号議案 平成19年度活動報告
- 第2号議案 平成19年度決算報告
- 第3号議案 平成20年度基本方針

各委員会事業報告及び事業計画

- 第4号議案 平成20年度予算案
- 第5号議案 定款変更
- 第6号議案 平成20年度役員選任の件

基調講演では、平成20年度におけるIT経営応援隊活動を中心とした中部経済産業局の情報政策について解説していただきました。たいへん有益なお話であったと思います。

特別講演1の「ITコーディネータの未来」では、

- 1.SE経験から見た従来のシステム構築の限界
- 2.日本のIT化の現状

－付加価値創生型のIT化が少ない

3.ITコーディネータの役割と価値

－将来狙う方向

といった角度からお話をありました。

中でも特に、SaaS/ASPに関しては、

- 1.SaaS/ASPのサービス形態
- 2.SaaS/ASPの活用を含むプロセス
- 3.ユーザ企業にとってのSaaS/ASP活用のメリット
- 4.IT業界へのインパクト



「ITC中部総会」会場

5.日本のSaaS/ASP促進策

6.韓国のSaaS/ASP促進策

7.SaaS/ASPを活用する上で考慮すべき事項

といった内容をたいへんわかりやすく説明していただき、たいへん有益なお話であったと思います。

最後に、特別講演2の「プロフェッショナルの社会的責任」では、プロフェッショナルとは何か、プロフェッショナルとしての認識から始まり、プロフェッショナルとしてのリスクについて詳しくお話をいただきました。

その後、そのまま、桜華会館 本館2F 蘭の間に場所を移し、懇親会が開催されました。懇親会まで参加していただいたのは、残念ながら40名でしたが、基調講演、特別講演の講師にも参加いただき大いに盛り上がりました。料理は、高級素材(?)が並んだせいかあつと言葉になくなりました。料理がなくなった後も関 会長を囲んでの記念撮影が始まると、その雰囲気はたいへんあたたかいものを感じました。

(ITC中部 山田 秀穂)

## 企業訪問(株式会社樹研工業様)

それはサプライズで始まった。『本日は松浦社長が直接、お話をします』『本当ですか』驚きの声が全員からあがつた。

豊橋にある株式会社樹研工業様は「パウダーギア」と名付けられた樹脂製で世界最小の歯車を生産できる技術を持つ。その重さは100万分の1グラム。直径0.147ミリ、幅0.08ミリ。あまりにも微細なため、肉眼では粉にしか見えない。しかし5枚の歯があり、きちんと回転する。このマイクロパーツで世界トップメーカーの社長が直々に、我々ITC中部の訪問に対して講演して頂けるのである。1時間半の間、直立不動の姿勢で話し続ける松浦社長の熱い想いに時を忘れて聞き入った。信念のあるユニークな発想が次々に披露されたのである。

社員は先着順で全員採用。学歴や見た目は関係なし。さらに給与は年齢順。産休後に復帰した時はその年齢給を支払う。これらの技術者に世界最先端でフルオプションの最高級のマシンを与える。意気を感じる技術者はやる気を持って事に当たる。ここ

に世界初の技術が生まれる。さらに最近はナノプロセッサーに注力するという方針の元、約10億円を投資して最先端の各メーカーの最新鋭機器を設置する計画を着々と実施中。ちなみに、生産性は50~60歳くらいが最高だそうである。

昨年8月より朝日新聞の経済気象台欄に毎月1回寄稿。文章を練り上げて編集者に提出すると、順序の入れ替えや表現方法変更の提案が毎回ある。最初の頃はなんだと思っていたが、後から見直すうまい文章になっている。最近はどこをどう直してくれるのかが楽しみになってきている。曰く、編集者とは面白い職業である。

これを聞いて、ITCの役割も同じではないかと感じた。文章という言葉を会社という言葉に置き換えてみる。ITを活用して会社の編集作業を行い、素材は同じでも、より良い面を出すことが出来る。まさにITCの役割である。

(ITC中部 岡部 勝彦)

## 税理士・会計士特集1(私にとってのITC)

ITC中部の皆さん、こんにちは、三重県伊勢市で税理士をしている中井です。どうぞ、よろしくお願い申し上げます。

名古屋駅前の安保ホールにてB551のクラスに入り、30名余りの仲間と勉強し、受験、見事合格し、ITコーディネータになって、早7年になります。

現在は、そのB551のクラスの仲間と『ITCみぎあし』という名称で、ITコーディネータの研修会と親睦会を2ヶ月に1度名古屋の会場で行っています。

『ITCみぎあし』の名称の由来は、「み」が三重県「ぎ」が岐阜県「あ」が愛知県「し」が静岡県とそれぞれの仲間の住所地を表しています。旨く名付けたでしょう?私が、今もITコーディネータを長く続けていれるのは、一緒に勉強しあった年齢も違う異業種の仲間のお陰だと思っています。クラスのみんな、ありがとうございます。

勉強会や研修も台湾や上海・北京など、国際的に行っており、現地企業の訪問や経済状況等の把握を行い、日本でのITコーディネータの業務に生かしております。

ITC中部では、企画委員会に所属しており、毎月企画委員会会議を名古屋で行っています。昨年は、ITコーディネータ協会が初めて地方でカンファレンスを行うことになり、「IT経営カンファレンス2007inNAGOYA」を出来上がったばかりの、ミッドランドスクエア・ミッドランドホールで開催し、当委員会もITソリューションフェア(展示会やセミナー)・レセプションの担当をおおせつかり、



中井 豊さん

カンファレンスのための企画会議や企業に出向いたり、前日より準備したりと良い経験をさせていただきました。

このように、ITC中部の会員になり、税理士業の世界だけでない、IT研修や、いろんな業種の流通過程の有り方や販売方法等の研修、お客様に喜んでいただける知識を身につけ、関与先企業様の発展に尽力できればこの上ない幸せであります。税理士の皆様、ITC中部と一緒に勉強しましょう。

(ITC中部 中井 豊)

## 税理士・会計士特集2(電子申告の取り組み)

当事務所における電子申告の取り組みは、TKCシステムの利用により、平成18年分の所得税及び年末調整、合計表の申告、提出から開始しました。

税理士会のICカードを入手し、電子申告対応の事務所としての体制を整え、関与先の皆さんにもお知らせしました。

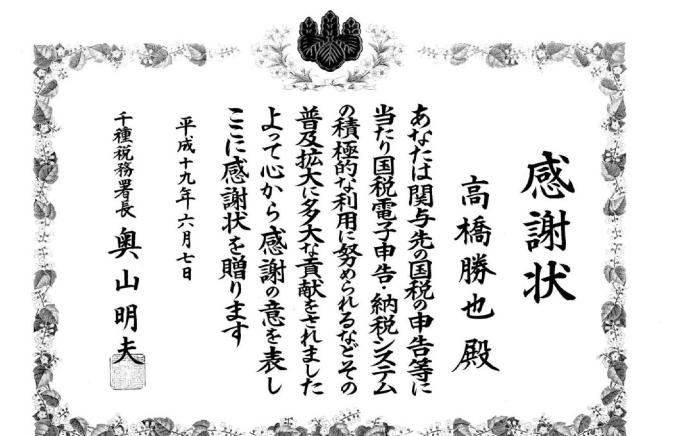
平成18年は、納税者の電子証明書が必要で、関与先の皆さんへ案内をしながら、「電子申告は通常業務」と位置付け、TKCの担当者を講師に、当事務所1階セミナールームにて職員、関与先の皆さんともに、幾度となく研修を重ね、スタートすることが出来ました。

また、暗証番号の管理方法も、関与先の皆さんとの了解を得て、当事務所の標準としての管理方法により、対応させて頂きました。

平成18年の電子申告の取り組みの実績は、目標達成には程遠い約60%にとどましたが、会計事務所としては、早い方の取り組みで、実績もそれなりに認めていただき、平成19年6月7日に千種税務署の奥山明夫署長から、感謝状を頂きました。

このことは、正に税務行政の新しい時代の幕開けを痛感した次第です。

平成19年になり、納税者の電子証明書が省略となり、平成20年1月に電子申告開始届けの税理士による代理提出及び利用者識別番号の即時通知が出来るようになってから、平成19年の所得税の確定申告、年末調整、合計表等の提出、20年2月以



感謝状

降の法人税、消費税の申告、各種届出等もほぼ100%電子申告にて実施し、通常業務となりました。

今後の当事務所としての電子申告は、2日間かかった確定申告業務、電子申告でわずか数分になり、地方発送の効率が良くなり、地方税の申告書の提出の効率が良くななどのメリットを生かし、電子納税への取組み、高齢者の方々や、一般の商工業者等への電子申告支援業務への取組み等を第2次のスタートとしていきます。

(ITC中部 高橋 勝也)